



但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2007.5

第8号

但馬国府国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町袴布 808
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112
http://www.city.foyooka.lg.jp/kokubunji/kan/



たてぬい よこあなしきせきしつ
桶縫古墳の横穴式石室(豊岡市日高町鶴岡/7世紀)

第10回企画展 よみ 「黄泉の国ってどんな国!?!」

地球上のあらゆる生き物には、必ず死が訪れます。もちろん、私たち人間にも。

人間以外の生物は、サルやゾウなどごく一部のほ乳類や昆虫を除いて、他者の死に興味を抱きません。しかし、人間は死を認め、死を前提として行動できる動物です。そのため、人間は「あの世」の世界を作り出したのです。

ところが「あの世」の世界観は、時代や宗教などによって大きな違いがあります。「あの世」が天上にあるのか、地下にあるのかという基本的なことですら、さまざまな考えがあるのです。

豊岡市内では、発掘調査によって、古代から近世までの墓が数多く見つかっています。さまざまな展示品から、古代の人が「あの世」をどう考えていたのか、また、古代の「あの世」と現代の「あの世」はどう異なるのかなど、死をめぐる人々の思いを感じていただければ幸いです。

■第10回企画展「黄泉の国ってどんな国!?!」
平成19年4月12日(木)～6月26日(火)

Topics 『古事記』に記された「黄泉の国」神話(あらすじ)

イザナギノミコトは、死んだ妻のイザナミノミコトに会いたいと思いい、黄泉の国に行きました。黄泉の国の御殿の戸からイザナミが出迎えた時、イザナギはこう言いました。「愛しのイザナミよ。私とあなたで作った国はまだ完成していない。もう一度戻ってきておくれ」

イザナミは、「私はもう黄泉の国の料理を食べてしまいましたので、もう現世へは帰ることはできません。でも、せっかくあなたがおいで下さったので、私も帰りたいと思います。これから黄泉の国の神と相談しますので、その間は決して私の姿を見ないでください」

イザナギは待ちましたが、イザナミは出てきません。イザナギはしびれを切らして、折った櫛の歯に火をともして御殿の中をのぞきました。すると、イザナミの体にはウジ虫がわき、8種類の雷神も集まってきました。それを見たイザナギは恐れをなして一目散に逃げました。イザナミは「私に恥をかかせましたね」と言うと、化け女に後を追

わせました。イザナギが髪飾りを投げると、ブドウの木が生まれました。櫛の歯を折って投げると、今度はタケノコが生まれました。化け女がそれらを食べているすきに、イザナギは逃げました。

するとイザナミは、大勢の化け物に後を追わせました。とうとう、この世と黄泉の国との境まで着いたとき、イザナギがそこにあった桃の実を3つ取って投げると、化け物たちはみな逃げていきました。

最後に、イザナミが自らやってきました。驚いたイザナギは大きな岩で通れないようにふさぎ、「離婚しよう」と言いました。するとイザナミは、「愛するあなたがそうするのなら、私はあなたの国の人間を一日に1000人殺します」と言いました。イザナギは「では私は、一日に1500人分の産屋を建てましょう」と言いました。こうして、人間は一日に1000人が死に、1500人が生まれてくるのです。

よみ「黄泉の国」ってどんな国!?

「黄泉の国」とは、地下にある死者が住む国という意味があります。奈良時代に作られた歴史書『古事記』には、伊邪那岐命と伊邪那美命が登場する有名な「黄泉の国」神話が載っていて、その時代の「あの世」の世界観を知ることができます。

『古事記』に描かれた「黄泉の国」は、前頁の Topics で紹介したように、暗く沈んだ光景です。お花畑が広がる「天国」の世界ではありません。地下にある暗い世界…それが奈良時代以前の人たちの「あの世」だったのです。

「黄泉の国」への入口とされる、猪目洞窟（鳥根県出雲市平田町猪目）



「黄泉の国」神話に登場する呪物

『古事記』の「黄泉の国」神話の中で、追っ手から逃げるイザナギはさまざまな呪物を使って化け物を追い払います。その呪物は、髪飾り、ブドウ、櫛、タケノコ、桃。古墳などからは、神話の世界を思わせるこれらの呪物が出土することがあります。



鬘櫛（小山1号墳／豊岡市日高町） 桃の種（祢布ヶ森遺跡／豊岡市日高町）

Topics 神秘の果物、桃

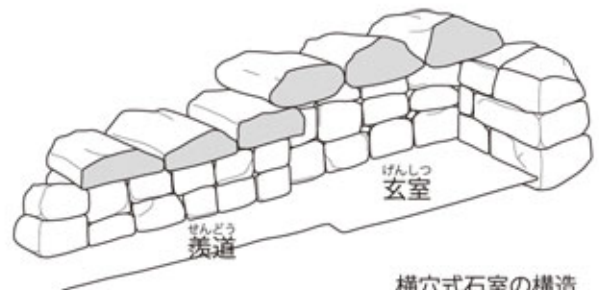
梅や柿など、古くから食べられていた数多くの果物。しかし、発掘調査で見つかる果物の種は、その多くが桃なのです。

古来中国では、桃は「逃」と同じ音であることから、「凶を逃れる」仙薬として珍重されてきました。また、独特の甘く強い香りが邪気を追い払うとも考えられていたようです。

桃は、単に味わうだけではなく、災いを逃れる呪物として使われていたのです。

「黄泉の国」と横穴式石室

『古事記』に記された「黄泉の国」神話は、古墳時代後期（6～7世紀）に日本中で造られた、横穴式石室をもつ古墳がモチーフになっていると考えられています。入口の戸をくぐり抜け、長く暗い通路（羨道）を通り、死者が葬られた部屋（玄室）へと至る『古事記』の情景は、横穴式石室の光景にとっても良く似ているからです。ただし、本葬までの間、遺体を仮に安置する「殯」を表現したものとする説もあります。



横穴式石室の構造



小山古墳群の出土遺物
（小山古墳群／豊岡市日高町）

横穴墓に副葬された須恵器
（北浦12・31号横穴／豊岡市森尾）



鉄刀（楯縫古墳／豊岡市日高町）



北浦横穴墓群（豊岡市森尾）
急な山の斜面に横穴を掘り、死者を埋葬しています。一般的に横穴式石室をもつ古墳に比べ、副葬品の数や種類が少ないのが特徴です。

● 仏教と「黄泉の国」

奈良時代に仏教が全国に広まると、死後の世界観は大きく変わります。仏教でのあの世は「極楽浄土」。地下の暗い場所にある「黄泉の国」に対し、「極楽浄土」は十億万の仏の国を過ぎた清らかな世界と言われています。

また、仏教の広まりにより、火葬が普及しました。ただし、仏教によりこれまでの「黄泉の国」がなくなるわけではなく、神仏が混じった新しい死後の世界観が生まれてくるのです。



蔵骨器 (香住エノ田遺跡/豊岡市香住)



須恵器と銅銭 (立石ヒジグチ墓/豊岡市森尾)
*銅銭は弘仁9(818)年初鑄の富壽神寶。



蔵骨器 (妙楽寺ヒシロ遺跡/豊岡市妙楽寺)

● 中世の墓と「黄泉の国」

鎌倉時代以降、浄土宗や日蓮宗など、新たな仏教が開かれました。念仏を唱えることで極楽浄土に往生できるという思想は、またたく間に庶民に浸透しました。また、「死」を極端に穢れたものとし、穢れを防ぐためさまざまなきたりが生まれました。位牌を用いるようになったのもこの時代。現代の仏式のお葬式につながる習慣が生まれ、暗く沈んだ「黄泉の国」神話は、忘れ去られていきました。



発掘された中世墓
(妙楽寺ヒシロ遺跡/豊岡市妙楽寺)



蔵骨器とその蓋、土師器小皿
(中郷深谷遺跡/豊岡市中郷)



水晶製辻玉 (数珠の母玉)
(法花寺カマド中世墓/豊岡市法花寺)

● 近世の墓と「黄泉の国」

江戸時代、寺院は幕府の統制化に置かれ、厳しく管理されていました。また、キリシタンではないことを証明するため、誰もが檀家になることが強制され、戒名や法要への参加をも義務付けました。今に続く仏式のお葬式は、この時代に始まったと言うことができます。



太平通寶 天聖元寶 皇宋通寶 熙寧元寶 元祐通寶 永樂通寶
976年初鑄 1023年初鑄 1038年初鑄 1068年初鑄 1086年初鑄 1408年初鑄



大石内蔵助の妻、
大石りくの遺髪塚
(正福寺/豊岡市日撫)



六文銭とその出土状況
(祢布ヶ森遺跡/豊岡市日高町)

六文銭とは、死者を葬るときに棺に入れる銭のこと。俗に三途の川の渡し賃と言われています。成仏を願う人々の気持ちが伝わる出土品です。

但馬国府・国分寺館 名品ギャラリー

⑦ 両面に顔を描いた人形

ひとがた
祢布ヶ森遺跡（豊岡市日高町祢布）出土
9世紀／長さ11.2cm



科学の未発達な古代、人々は生きるためにさまざまな祭祀さいしをおこなっていました。祢布ヶ森遺跡では、人形ひとがたなど祭祀に使われた木製品が多く出土しています。しかし、この人形のように、顔を大きくかたどったり、両面に顔を描く人形は非常に珍しく、さまざまなまじないの形態があったことを物語っています。また、この人形は、門の柱穴の中に入れていました。けがれや災いなどが施設内に入らないような願いが込められていたと考えています。ただ、裏表で表情がまったく異なっていることをみると、一枚の人形で2つの願いを込めていたのかもしれない。

Topics 現代の墓と「黄泉の国」

現在の法律では、墓地以外への埋葬は禁止され、さらに埋葬には許可が必要です（昭和23年施行「墓地、埋葬等に関する法律」）。これによって、各地の古い慣習はほとんど姿を消してしまいました。ちなみに、現代の一般的な「〇〇家之墓」という石塔が登場するのは、明治時代後半というまだ最近のことです。

また、これまで地域が共同で担ってきたお葬式が、専門業者の参入で大きく様変わりしてきました。さらに、さまざまな宗教や思想が、死後の世界観をより多様化しています。今後も、個性を尊重するお葬式が増えていくでしょうが、仲間の死を悲しみ、自らの死を恐れる人間の気持ちは変わることはありません。

お知らせ

■講演会を開催します

第10回企画展「黄泉の国ってどんな国!?」に合わせ、講演会を開催します。発掘調査で明らかになった古代人の死生観や、お葬式の始まりなど、「あの世」をめぐるさまざまな話題をご紹介します。ご来聴をお待ちしております。

演題：「あの世」の考古学

講師：前岡 孝彰（当館学芸員）

日時：平成19年6月23日（土）午後1時30分～

場所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

定員：40名

その他：入場無料です。申し込み等も必要ありません。

■公開講座“『古事記』をよむ”を開催します

園田学園女子大学大岡山グリーンキャンパスと共催で、公開講座を開催します。日本最古の歴史書『古事記』を、神話や歴史、歌謡などさまざまな視点からとらえます。

テーマ：『古事記』をよむ（全3回）

講師：影山尚之先生（園田学園女子大学教授）

第1回：6月30日（土）『古事記』はなぜ書かれたか、
いかに書かれたか

第2回：7月21日（土）上巻 神々の営み

第3回：7月28日（土）中・下巻 天皇の物語

時間：各回とも午後1時30分～3時

場所：日高農村環境改善センター（豊岡市日高町国分寺）

受講料：1500円（3回分）

定員：40名（先着順）

その他：要申し込み。当館へ電話でお申し込みください。

但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■所在地：豊岡市日高町祢布 808

■開館時間：午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週水曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（12月28日～翌年1月4日）

■入館料：大人500（400）円、高校生200（150）円、
小中学生150（100）円／（ ）内は20名以上
*県内小中学生は無料。市内の65歳以上の方は半額。

■最新のイベント情報など、詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>